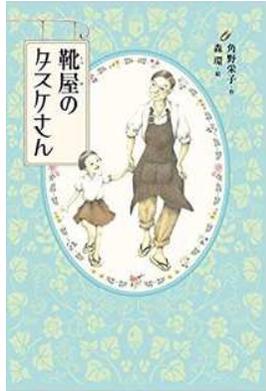


平成29年度 荒川さつき会館にある平和に関する本

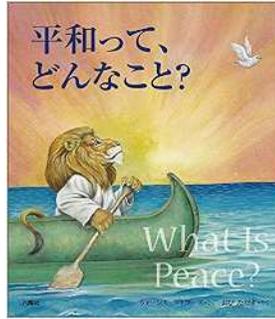
しょうがっこう ねんせいむ  
小学校1～4年生向け



くつや  
靴屋のタスケさん

さく かのえいこ え もりたまき  
作：角野栄子 絵：森環

タスケさんは、いつも細ながい背中をまるめてふるい靴をなおしていた。わたしは、タスケさんがだいすきだった。戦争の時代の、小さい女の子と靴屋のお兄さんの話。



へいわ  
平和って、どんなこと?

さく  
作：ウォーレス・エドワーズ

シンプルな問いかけで、「平和」の持つ意味をみんなで考え、語り、えがこうとする絵本。たずねても、たずねても、だれもひと言ではっきり答えられない...、平和のはなし。



ほし  
星になった子ねずみ

さく てしやうすけ え おかもとさつこ  
作：手島悠介 絵：岡本颯子

特攻隊員の少尉の「手紙」を届け  
るため、子ねずみのチックくんは  
かごしまからとうきょうへ。そこで待ちう  
けていたのは、東京をおそった  
しょういだん あらし  
焼夷弾の嵐でした。



つきよのたけとんぼ

さく うめだしゆんさく  
作：梅田俊作

じいちゃんが、孫のハナやタロ  
くらの子どもだった頃。戦死し  
た父ちゃんにかわって、母ちゃん  
は一日中働きとおしだった。  
うみべ 村ら くうしゅうけいほう  
海辺の村に空襲警報のサイレン  
が鳴りひびく。



とう  
父さんたちが生きた日々

さく ツェンロン やく なかゆみこ  
作：岑龍 訳：中由美子

留学生だった中国人の父さんと  
日本人の山本さんは兄弟のように  
友情を深めながら勉学に励む。日中  
戦争で二人は別々の運命をたどるが、  
二人の友情の思い出は古い二枚の  
写真が鮮明に物語っている。

しょうがっこう ねんせいむ  
小学校5～6年生向け



おと  
くつの音が

さく あさのあつこ え ふるやみつとし  
作：あさのあつこ 絵：古谷三敏

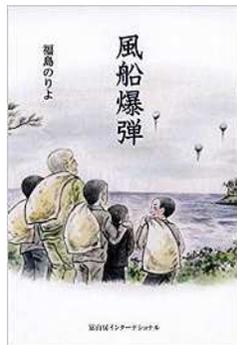
戦争を知らない児童文学作家と戦争  
をよく知る漫画家による、戦争を語り  
継ぐための絵本。テーマは「おと・  
におい・ひかり」。最愛の息子を戦地へ  
送り出した母親を描く。



はな  
だれにも話さなかった祖父のこと

ぶん  
文：マイケル・モーパーゴ

ずっと聞いてみたかった祖父の秘密。  
それは、祖父の若かりし日のできごと。  
そして、だれにも話せなかったほど、  
つらく衝撃的なできごと...



ふうせんばくだん  
風船爆弾

さく ふくしま  
作：福島 のりよ

太平洋戦争末期、日本には、も  
うこれ以外に米国への攻撃の  
手段はなかった。気球に爆弾を積  
み、無誘導で9千発以上が放たれ  
た。すべて秘密で行われ、今も  
ほとんど知られていない。いった  
い何があったのでしょうか。



ろくじゅういちねん  
六十一年ぶりの手紙

ちよ ささきともこ  
著：佐々木智子

春海のおじいちゃんは航海士。船舶  
徴用で通航中に敵艦の魚雷で沈没  
し戦死したと教えられるが...。おじい  
ちゃん捜しに意外な結末が!



ガラスのペーゴマ

さく むくげ え ひさなが  
作：榎なほ 絵：久永フミノ

のどかな田舎町で出会ったのは、  
弟のあおいを「ミチヨ」と呼ぶ  
認知症のおじいさんと、町中に色濃  
く残された、戦争の傷跡だった...。  
実在する町をモデルにえがかれた、  
戦争と家族のきずなをめぐる、やさ  
しい物語。

これらの本は、荒川区教育委員会指導室学校図書館支援室の協力を得て選定しました。